

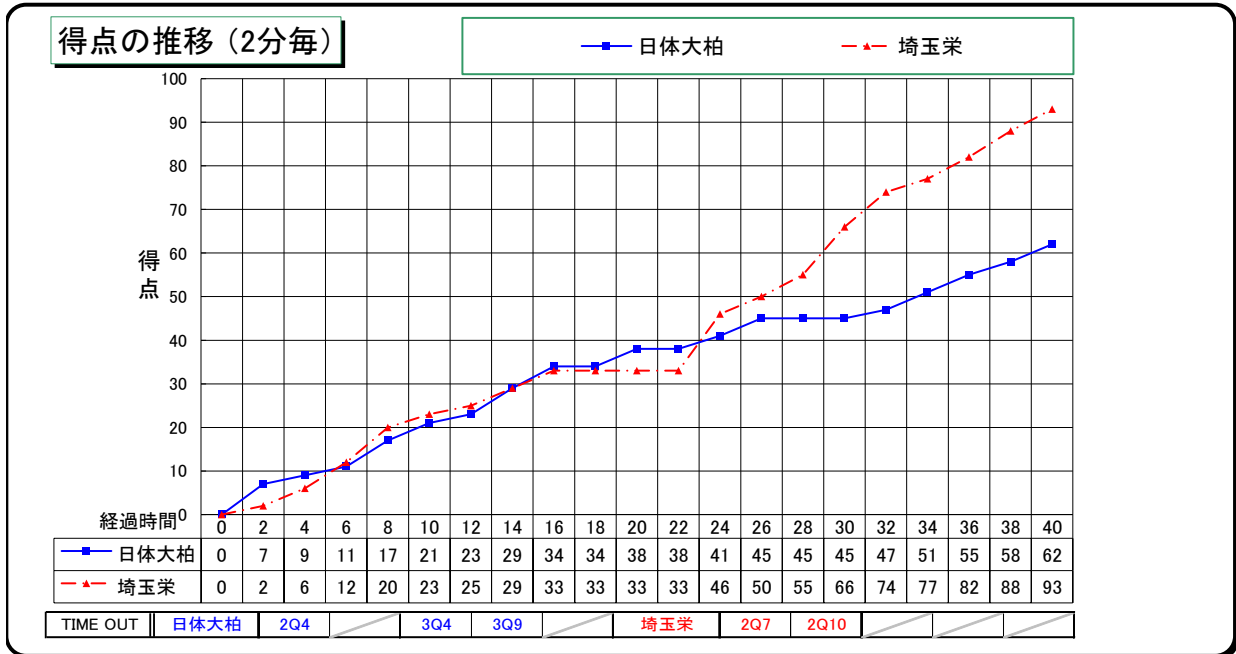
令和5年度関東高等学校男子バスケットボール大会 兼 第77回関東高等学校男子バスケットボール選手権大会 ＜Bブロック 2回戦＞

令和5年6月3日(土)	アダストリアみとアリーナ	大会1日目	Dコート	第5試合 15:00～
<チームA> 日体大柏 千葉	62	93	<チームB> 埼玉栄 埼玉	
主審: 大山 賢史(栃木) 第1副審: 根反 祥恵(茨城) 第2副審: 飯塚 昌之(茨城)				

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
◎	4	小林 晟也	6			2	7	2	2		1		
◎	5	鎌田 悠生	17			8	16	1	2	1	5	5	4
○	6	中村 元之輔	1	1		6	1	2	1	3	3	1	
◎	7	八嶋 鎧琉	11	1	10	4	11			1		2	3
◎	8	小澤 佑介	7		2	2	4	3	4	3		1	
○	9	関原 克	4			2	3				1		
○	10	加瀬 人誠	2			1	1			1		1	
○	11	梅溪 翔生	3		1	1	2	1	3				
○	12	内田 優碧					2					2	
◎	13	伊塚 玲央	7		1	2	4	3	4	1	1	4	
○	14	中沢 隼			1								
○	15	清原 大輔					1				1	2	
○	16	前田 大和	2			1	2			3	1		
○	17	江面 優					2						
○	18	中野 優哉	2			1	3				1	1	1
		コーチ 野澤 亨											
合計			62	1	16	24	64	11	17	11	14	21	9

S	No	選手名	得点	3P		2P		FT		F	リバウンド		アシスト
				成功	試投	成功	試投	成功	試投		OF	DF	
○	0	白濱 瑛良	5		4	2	3	1	1	1	1	1	1
○	1	後藤 悠大	7	1	1	2	4		2	1		1	1
○	3	鹿 夏哉人			1							1	
○	5	伊東 隼人	3			1	3	1	2			1	2
○	7	齋藤 壮悟	2			1	3				3	1	
◎	8	眞壁 啓太	16	2	3	5	9			3	1	3	4
○	17	松本 昂也					1					2	1
◎	20	横島 星七	7	1	3	2	6			1	1		3
○	23	岡田 悠希	9		1	4	9	1	2	1	6	3	2
○	25	萩原 千明貴	2			1	2						
○	26	小原 強			1	1						2	2
◎	34	孫 啓剣	17			8	8	1	2	3	4	5	1
○	35	平川 光流	2		1	1	3				1		1
◎	47	椎名 勇翔	18	4	8	3	4			2		4	
◎	77	中谷 月陽	5			2	6	1	2	1	1	4	1
		コーチ 伊藤 裕一											
合計			93	8	23	32	62	5	11	16	18	27	19

◎:スターター / ○:出場 / 3P:3点シュート / 2P:2点シュート / FT:フリースロー / F:パーソナルファウル



戦評	記入者: 鈴木 岳史
-----------	------------

令和5年度関東高校男子バスケットボール大会Bブロック2回戦、日本体育大学柏高校(以下、日体大柏)vs埼玉栄高校(以下、埼玉栄)

第1Q、ともにハーフコートマンツーマンで守る両チームは、オフェンスでも互いにハーフコートオフェンスで攻める。序盤、#7八嶋の3Pやドライブインでリードを奪った日体大柏はその後インサイド#4小林#5鎌田を中心に攻める。対する埼玉栄は#8眞壁のゲームメイクから#47椎名が得点すれば、#34孫が高さや強さを発揮し、オフェンスリバウンドから得点。リードチェンジを繰り返した第1Qは終盤に#47椎名が3Pを沈め、21-23と埼玉栄2点リードで終了。

第2Q、流れを掴みたい両チーム、互いにハーフコートでしっかりと守り、オフェンスではスクリーンを使い、スペーシングを意識した攻めを展開する。埼玉栄は#23岡田がクォーター最初の得点を挙げると中盤にも連続得点。対する日体大柏はインサイドで#5鎌田が奮闘。レイアップやオフェンスリバウンドからのゴール下で得点すれば、#7八嶋のジャンパーやスティールから#13伊塚のファストブレイクも決まり、38-33と日体大柏が5点のリードを奪い返して前半終了。

第3Q、逆転を許した埼玉栄は前半からゲームメイクで抜群の存在感を見せていた#8眞壁が積極的に自ら攻める。ドライブインや3Pなどで得点し、オフェンスを引っ張ると開始3分15秒間で0-13のラン。一気に試合をひっくり返す。離されたくない日体大柏は、インサイドで奮闘を続ける#5鎌田が得点するが、埼玉栄の粘り強いディフェンスの前に苦しい体勢でのシュートが多くなり、連続得点が挙げられない。日体大柏オフェンスを封じ、このクォーターの失点を7に抑えた埼玉栄は、6本の3Pを沈めるなど、一挙33得点。45-66と埼玉栄がリードを21点に広げて第3Q終了。

第4Q、埼玉栄は#34孫がゴール下を支配して加点し、点差をさらに拡大。負けれない日体大柏は#7八嶋を中心に果敢に攻めるが、得点は単発で、ビハインドを縮められない。中盤以降、両チームがメンバーチェンジで下級生を起用し始めると次第に試合はオープンな展開になるが、それでも攻守にリズムを掴んだ埼玉栄は#1後藤を中心に最後まで攻め続ける。最終クォーターも27点を奪った埼玉栄が62-93で勝利。

この日2試合目となる2回戦に勝利した埼玉栄が、翌6月4日に行われるBブロック準決勝へと駒を進めた。